

令和八年四月八日（水）令和八年度 第一学期始業式 校長式辞

改めまして、おはようございます。

季節は移ろい春本番となっております。先日は、桜も満開になりました。二年生並びに三年生に進級した皆さんと、元気で再会できましたことを、うれしく思っています。

この春休みも、休むことなく部活動に励んだ人、後の伝達表彰にもありますが、全国選抜等に出場・活躍した人、また毎日生き物の飼育に頑張った人もいました。

年度の初めにあたり、二点お話しします。

一点目 三月一六日、痛ましい事故が起っています。

沖縄県に研修旅行中の京都府にある同志社国際高校の二年生が乗船していた小型船が転覆、皆さんと同年代の一七歳の女子生徒が亡くなられました。

授業や学校祭でも行うカッターを始め、実習船などによる海に出での実習や部活動、海などに潜水する実習など行うことの多い本校ですが、改めて、海上での安全確保の重要性を認識しなければなりません。

その「安全」を確保するため、海洋高校では、一層の規律ある行動を求めています。

例えば、「いつでも面接に通用するほどの一人一人の礼儀正しい態度」「指示や指導に素直に従える。」「制服の着こなしを含め、身だしなみをきちんとする。」「あいさつがしっかりとできること」などがその例ですが、お陰様で、海洋高校生は、近隣住民や他校の先生、そして就職先での評判が素晴らしく良いです。上級生になった皆さんは、先輩たちのよき伝統を守り、明日入学する一年生にもよいお手本となっていたいただきたいと思えます。

関連しますが、他人によい印象を与える三項目を、この場で皆さんに提供します。それは、「あいさつ」、「笑顔」、「服装（身だしなみ）」だそうです。日頃からこの三つを意識して人に接することで、周囲の人から愛される存在になれると確信しています。

二点目 三学期終業式にも述べましたが、戦争が続いています。何とかならないものか、解決できないものか？と思っはいますが、思いどおりにはなりません。

元首相の吉田 茂氏の御長男、現在国会議員の麻生 太郎氏の祖父であります、（亡くなられています）、英文学者であり作家の吉田 健一氏は、昭和の初め頃の、日本の悲惨な戦争まったただ中の時代を生きた人ですが、その吉田氏によりますと、「戦争に反対する唯一の手段は、各自の生活を美しくして、それに執着することである。」という言葉を残されています。

これは、戦争の悲惨さを強調して嘆くことよりも、一人一人が日々の穏やかで丁寧な暮らしを愛し、守り抜くことが真の反戦であるという意味を示唆されているそうです。

つまり、私たちは、他国で戦争が起ころうとも、肅々と自分に与えられた使命を全うすること、今、自分がすべきことは何かをよく考え、後々に悔いを残さない生活を送ることが大切であると理解することができまます。

さて、年度が八年度となり、教職員のメンバーも入れ替わりがありました。二年生は、事実上のクラス替えがありました。生徒間、また生徒と教員の間でもお互いが尊重し合い、そして高め合えるよい人間関係の構築に努めてください。

この一学期、特に、三年生は進路実現に向けて、まさに一学期が勝負であります。また、二年生は、学科・コースに分かれ、本格的な専門学習・実習、研究活動が始まりますし、部活動においては、三年生が引退した後は、中心となって部活動を引っ張っていくこととなります。

結びになりますが、三月二十八日（土）の朝日新聞別刷りに、年代を問わず一般の方・社会人向けにとったアンケートの結果が載っていました。新年度に楽しみだったことは？という問いに対し、一位 クラス替え、二位 新しい教科書 三位 新しい友達、四位 我が子の入園・入学、五位 新しい先生、六位 新しいことが勉強できる。その他、テレビの新番組、花見などの投票もありましたが、社会人になっても、圧倒的に学校生活の楽しい思い出が上位にきています。

そんな、後の人生でも、必ずや思い出にもなる、わくわく感満載の新学期が始まりました。

プロ野球選手、日本国内以外にアメリカ大リーグでも活躍された野球殿堂 イチロー選手の言葉に「努力に勝る天才はない。」というのがあります。そんな言葉も胸に、この学期、学習や部活動、資格取得、そして進路実現などに向けて、悔いが残らないよう自覚をもって取り組んでほしいと思います。それでは、七月十七日の終業式には、充実感が味わえるように、ここにいるみんなで、実りある一学期となるようがんばりましょう。以上です。

令和八年四月八日

京都府立海洋高等学校

校長

上林 秋男